



日本物理学会の活動紹介

日本物理学会について

物理学の研究・教育に携わる人々が集結し、物理学に関係する様々な活動を行う学会です。1877年に数学を含む東京数学会社として発足したことが始まりで、1884年以降は数物学会として活動していましたが、1946年に解散して日本数学会と分離する形で日本物理学会が設立されました。2020年の時点で約16000名の会員が在籍し、会員の約48%が大学、12%が公的研究機関、10%が民間企業に所属しており、大学院生を含む学生の割合は約15%です。

♡日本物理学会の活動♡

会員が研究成果を発表し、研究仲間との質疑応答や情報交換を行って、さらに研究を発展させていく場を提供しています。

・各年度に年次大会、春季（秋季）大会が開催され物理に関する様々な研究分野で数千名の参加者が最新の研究成果を発表し質疑応答を行います。日本各地の大学のキャンパスが順次会場になります。日本全国に研究仲間をつくることができます。

・毎年3月の年次大会（あるいは春季大会）で開催される**Jr.セッション**では中高生の皆さんが研究成果を発表し、物理学者からの質問やコメントに触れる機会があります。



・日本物理学会誌（和文、月刊）を発行し、物理学の研究教育の最新の情勢を会員にわかりやすく紹介しています。また、物理教育に関する情報交換のための「大学の物理教育」誌(和文、年3回)を刊行しています。

物理学の研究・教育の国際化・グローバル化を進めています。

・日本物理学会は、アメリカ・韓国・ドイツなどの世界各国の物理学会と相互協定を結び、互いの会員が同等の資格で活動に参加できるようにしています。また、アジア太平洋物理学会連合(Association of Asia Pacific Physical Societies, AAPPS)のメンバー組織として、物理学の振興に向けた国際協力を推進しています。世界中に研究仲間ができて、国際会議で研究成果を発表する機会も増えます。

・女性研究者を支援・奨励する戦略を開発することを目的とした国際会議**Women in Physics(WIP)**で中心的な役割を担っています。特に、AAPPSのWIPでは日本物理学会の野尻美保子先生が議長、田島節子先生が副議長として活躍しています。

♪物理学者のライフワークバランス♪

生徒の皆さんは「研究者は生活を犠牲にして全てを研究に捧げなければならない」という印象をお持ちかもしれませんが、そのようなことはありません。大学・公的研究機関・企業に所属する物理の研究者は、生活（ライフ）と研究（ワーク）のバランスをとって両方を楽しみながらキャリアを積んでいくことができます。

キャリアパスが多様化する中、理系選択から博士の学位を取得して研究職へと進む（王道の？）パスが整備される一方で、企業で勤務した後に、その経験を活かして教育研究機関に移るパスもあります。



☆女性物理学者の活躍☆

物理の女性研究者は少数ですので、物理分野の研究・教育に関わるキャリアに就くことは不安だと思っておられるかもしれません。確かに、日本物理学会の女性会員の割合は6%程度となっています。一方、注目される研究成果を挙げて重要な会議で招待講演者に選出されるなど大活躍する女性研究者は確実に増えています。また、女性研究者を奨励・支援する様々な活動が進んでいますので、今後は女性の割合が増加していくと予想されます。

第52期会長の米沢富美子先生の業績を記念して、優れた業績を挙げた若手の女性研究者に**米沢富美子記念賞**が授与されます。



本展示は、日本物理学会の**ダイバーシティ推進委員会**（委員長 小林夏野）が中心となり企画しました。当委員会は「物理の教育・研究・応用において男女が互いにその人権を尊重し、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる」という環境の実現・維持のために活動しています。

